

# 第54回労働リーダーシップコース開催報告

金属労協組織総務局部長 上口 智子

2023年10月12日から28日まで、京都・関西セミナーハウスにおいて、第54回労働リーダーシップコースを開催した。今年も新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染防止対策を徹底し開催した。4本の柱に基づく全人格的教育をめざし、25名（うち女性3名）の受講生が研鑽に励んだ。

## 開校式―晴天の中開校

2023年10月12日（木）、10月中旬というのに暑さの残る中、10時から開校式を行った。篠笛（森田玲・玲月流初代）の奏楽で始まり、式辞として香川孝三校長（神戸大学名誉教授）が、コースの意義を述べるとともに、受講生を激励した。植木朝子名誉校長（同志社大学学長）は「今回のセミナーが、ともに知り、ともに理解する機会となり、意義ある学びの時を過ごされることを期待します」と激励した。また主催者代表挨拶として金子金属労協議長が挨拶に立ち、「日々寝食を共にする仲間同士、遠慮なく話し合い、耳を傾け、充実した17日間を過ごすことにより自ずと得られるものも多いのではないかと肩肘張らずに取り組んでいただきたい」と述べた。

来賓の厚生労働省・森川善樹政



開校式で決意表明を読み上げる受講生代表

策統括官からは「このコースで学ばれた知識をもとに労働界のけん引役になっていただくことを期待しています。本コースがますます充実・発展されることを祈念します」と激励を受けた。続いて関西ブロック・嶋本貴至代表と石田光男副校長が挨拶に立ち受講生を激励した。最後に受講生を代表して全本田労連中央執行委員・上野圭美さんが受講生宣誓を行い、開校式を終了した。

## 受講生による自主運営

労働リーダーシップコースは全期間完全合宿制。コースの運営は、受講生による自主運営を基本としている。コース全般の企画・運営は各班の班長からなる「実行委員会」が、討論会の企画・運営は「討論会委員会」が行う。また、講義の司会進行を行う「座長」も受講生の中から選出される。

それぞれの役割は1日目夜の全体ミーティングで決定する。各班の班長の中から1名、級長を選出するが、今年の級長は、自己紹介で「級長になりません」と積極的に宣言した全本田労連の緒方中央執行委員に全会一致で決定、第45回以来二人目の女性級長が誕生した。期間中、緒方級長の座右の銘が写真撮影時の合言葉となり、受講生の一体感が生まれた。その他、今年は新たに「ラジオ体操・

散歩委員会」を発足させ、事務局が誘導していた散歩のコースも受講生が自主的に決定・誘導することとなった。これは、一人でも多くの受講生が主体的にコース運営に携われるようにという、第53回修了生の発案によるもの。午後の講義が終わった後、地図を片手に新しい散歩コースを探するなど委員の努力により、ラジオ体操・散歩がより充実したものとなった。

## 講義だけではない 魅力ある特別プログラム

コース期間中、労働法や労使関係論など実践的な講義から、国内外の労働運動などの歴史的背景を学ぶ講義、職場の人間関係について考えるメンタルヘルスに関する講義、DXやAIについて学ぶ講義など座学が中心ではあるが、坐禅やお茶室体験など日本固有のカルチャーに触れる、魅

右／鞍馬山散策・天狗の前にて一さあ、これから鞍馬山に向けて出発！  
下／ある日の朝食風景－アクリル板も撤去され、会話が弾みます



力ある特別プログラムも実施している。また、鞍馬寺で鞍馬山の自然環境について学ぶ「鞍馬山散策」も全員参加で開催した。特別講演「経営と人間」では、地元京都に本社を置



貿易ゲームーどこのチームが一番交渉上手かな？



ゼミ発表ー労働リーダーシップコースの集大成

く株式会社SCREENホールディングス取締役会長・垣内永次氏から、企業理念や労使関係、所定労働時間や福利厚生に関する取り組みなどについて講演を受けた。ここでは、ゼ

ミナールと討論会について報告する。

## ①ゼミナール

5つのテーマに分かれて労働組合活動や職場での課題を持ち寄り指導教授や受講生同士で解決案を探るゼミナールは、自主ゼミも含め全部で5回行った。ゼミナールの時間だけではなく、夜も各ゼミで集まるなど、発表に向けて討議を繰り返した。コースの最後にはゼミナールごとにパワーポイントを使って発表を行い、成果を共有しあった。各ゼミナールのテーマは次のとおり。

○香川ゼミ「労働組合と国際」→労働組合と人権デュー・ディリジェンス

○石田ゼミ「労働組合と職場」→労働者の変化に合わせた労使関係

○中田ゼミ「労働組合と社会」→仕事と処遇 納得性のある給与水準

○上田ゼミ「労働組合と企業」→魅力がある職場と組合の役割 組合が変われば社会が変わる

○寺井ゼミ「労働組合と働き方」→ワーク・ライフ・バランスと労働組合の役割

## ②討論会と特別討論会

### 「三役と語ろう」

ゼミナール以外の様々な場面でより多くの受講生が語り合えるよう、討論会を設けている。討論会は、結

論や報告を求めず自由に討論することを目的とし、受講生だけで行う

「討論会」と金属労協三役と語り合う「特別討論会」の計2回行った。討論会のテーマは、受講生から選出された討論会委員会で決定する。特別討論会では、「組合員は何を求めているか」「組合員の政治意識をどう高めるか」「女性役員が活躍できる組合のあり方」など、日ごろ職場で感じている課題や疑問について三役と語り合った。受講生からは、「三役の経験談は参考になった」「貴重な経験だった」「考えを広げる良い機会となった」「刺激になった」との感想が寄せられた。

## 閉校式

開校時には青々としていた関西ゼミナーハウスの木々が、日々、赤や黄色に色づきを増す中、最終日を迎えた。

2023年10月28日(土)朝から出発(たびだち)の集いを行い、受講生一人ひとり、感想を述べ合った。その後、閉校式を行った。式辞として香川孝三校長(神戸大学名誉教授)が「皆さんはコミュニケーション能力に長けていて、フットワークがとても良い。リーダーとしての資質も備えている。今後とも労働運動発展の



閉会式で答辞を読み上げる緒方留美子級長

ために貢献していただきたい」と激励し、25名全員に修了証書を授与した。主催者代表として梅田利也金属労協事務局長が挨拶に立ち「今、社会・仕事・生活のあり方など大きな変化が起きている。このような中、労働組合の果たす役割はかなり大きい。組合の大きな武器は『人』である。これからも気概を持ち続け、皆さんの次に続く後輩に、その思いをつなげていっていただきたい」と述べた。その後、ゼミナール担当講師の石田副校長（同志社大学名誉教授）、中田運営委員（同志社大学教授）、上田運営委員（同志社大学教授）が修了生を激励した。受講生代表としての答辞では、第54回級長の全本田芳連・緒方留美子中央執行委員が研修期間中の思い出を語るとともに、「第54期生のみんなには感謝しかありません。

ここで学んだことは私たちの財産です。今、自分が何をすべきかを考え試行錯誤を続けながらも、組合員と家族の幸せの実現のために行動に移していけるそんな自信に繋がりました」と述べた。最後に「卒業の歌」を全員で合唱し、閉校式を終えた。

## 次回、第55回開催へ

労働リーダーシップコース（旧西日本）の修了生は通算1832名、旧東日本コース（第1～40回）の939



全員集合！一ゼミ発表の合同に。皆、晴れ晴れとした顔をしています

名と合わせて、2771名となった。次回、第55回コースは2024年10月17日（木）～11月2日（土）に開催する。第54回コースの経験と反省を活かし、より多くの受講生に充実した17日間だったと実感していただけるよう改善をしていきたい。

## 第53回コースのその後―再会

2022年10月29日に閉校した約7カ月後、再び関西セミナーハウスに懐かしい仲間の姿があった。2023年6月12～13日、第53回修了生発案による「フォローアップ研修会」が、修了生21名のうち半数以上の12名の参加により開催された。金属労協・金子議長による「働きがいの向上と金属産業の発展のために」と題した開



フォローアップ研修会

校講演から始まり、組合活動と企業トピックスの報告と意見交換、2日目には香川校長の「アジアから見る日本の労働組合と労使関係」の特別講演と、10月のコースさながらのプログラムが実施された。コース終了後の7カ月間を改めて振り返るとともに、今後の課題などを共有し合った。「改めて皆で課題を共有しあえたこと、刺激をもらえたことで、再び頑張ろうという気持ちが高まった」との感想も聞かれた。最後に次回フォローアップ研修会の開催を約束し、解散した。

## 実行委員会

各ゼミナールから班長各1名互選し、計5名で実行委員会を編成する。実行委員会の中から1名級長を互選する。コースは受講生の主体的な運営を基本とし、実行委員会がその中心となる。全体ミーティングで選出された第54回コースの実行委員会メンバーは次のとおり。

- 級長：緒方 留美子（全本田労連、中田ゼミ班長）  
 副級長：朝川 伸広（本田技研労組埼玉支部、香川ゼミ班長）  
 高橋 泰之（コマツユニオン氷見支部、石田ゼミ班長）  
 今村 博行（ダイハツ労組、上田ゼミ班長）  
 岩崎 友昭（日本電気労組玉川支部、寺井ゼミ班長）

## 第54回労働リーダーシップコースに参加して



第54回労働リーダーシップコース級長  
全本田労連 中央執行委員 緒方 留美子

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置づけられたことで、コロナ禍以前の生活や様々な活動を再開し始めた中で開催された労働リーダーシップコースは、これから始まるカリキュラムと非日常的団体生活に対する大きな期待と不安の入り混じるスタートでした。

開校式が始まるまでは、他産別の方々との交流に戸惑っていましたが、労働組合の役員として身に着けたコミュニケーションスキルで、全員が打ち解けるまでに時間はかかりませんでした。だからこそ、これから約2週間半寝食を共にする中で、どのような気付きがあり理解し吸収できるのか、逆に自分はどのような気付きをみんなに与えることができるのかを感じた瞬間でもありました。そして、参加したからには最大限楽しみたいという前任者からの意思も受け継ぎ私は級長に立候補しました。

級長として頼りない部分が多くありましたが、班長はもちろんのことみなさんに支えていただけたことは本当に仲間に恵まれた級長であったと実感しています。そして、みんながリーダーとして個性を活かし支え合い、同じ方向へ向かっていくことができたこの経験は、労働組合の役員として、このセミナーに快く送り出してくれた職場のみなさんや、私たちに関わってくださる方々への感謝の気持ちを持ちながら、自分が何をすべきかを考え行動していかなければならない活動のなかで、大きな自信につながりました。

これからも、このコースで学び経験したことを活かして組合員とその家族の幸せのため、そして誇れる産業の実現に向けて活動していきたいと思います。

## 第54回労働リーダーシップコースを振り返って



労働リーダーシップコース校長  
神戸大学・大阪女学院大学名誉教授  
香川 孝三

2023年10月12日から28日の17日間の労働リーダーシップコースを無事に終えてほっとしているところです。最初、硬い表情の受講生と向き合った開校式から、翌日には一転してなごやかな表情を見せていた第1回のゼミ風景を思い出します。今回は3名の女性達の活躍が目につきました。開校式での決意表明、閉校式での答辞(級長の担当)、ゼミ発表での質問、私が担当した授業での質問、交流会での世話役等々。25名の受講生の中の3名は、12%にしかならない。しかし、それ以上の活躍を果たしてくれたように思います。数字ではなく、質の高さです。これに対して男性側はどう見ていたのでしょうか。ごく自然に受け入れていたように感じました。男女を問わず、受講生は職場のリーダーとして、そのコミュニケーション能力の高さを発揮して、グループをまとめ上げていった力を感じました。

関西セミナーハウスでは、1人1部屋で泊まれる宿泊人数の限度が25名です。宿泊施設からみれば、25名が適正規模ですが、労働リーダーシップコースに参加したい希望者はそれを上回っているようです。それにどう応えていくか検討しなければならない問題です。さらに、多くの受講生を送り込んでくれる組合があることはありがたいことですが、これまで参加してこなかった組合からも受け入れができれば、より素晴らしいことです。今回は初めて参加したという組合が1つありました。